

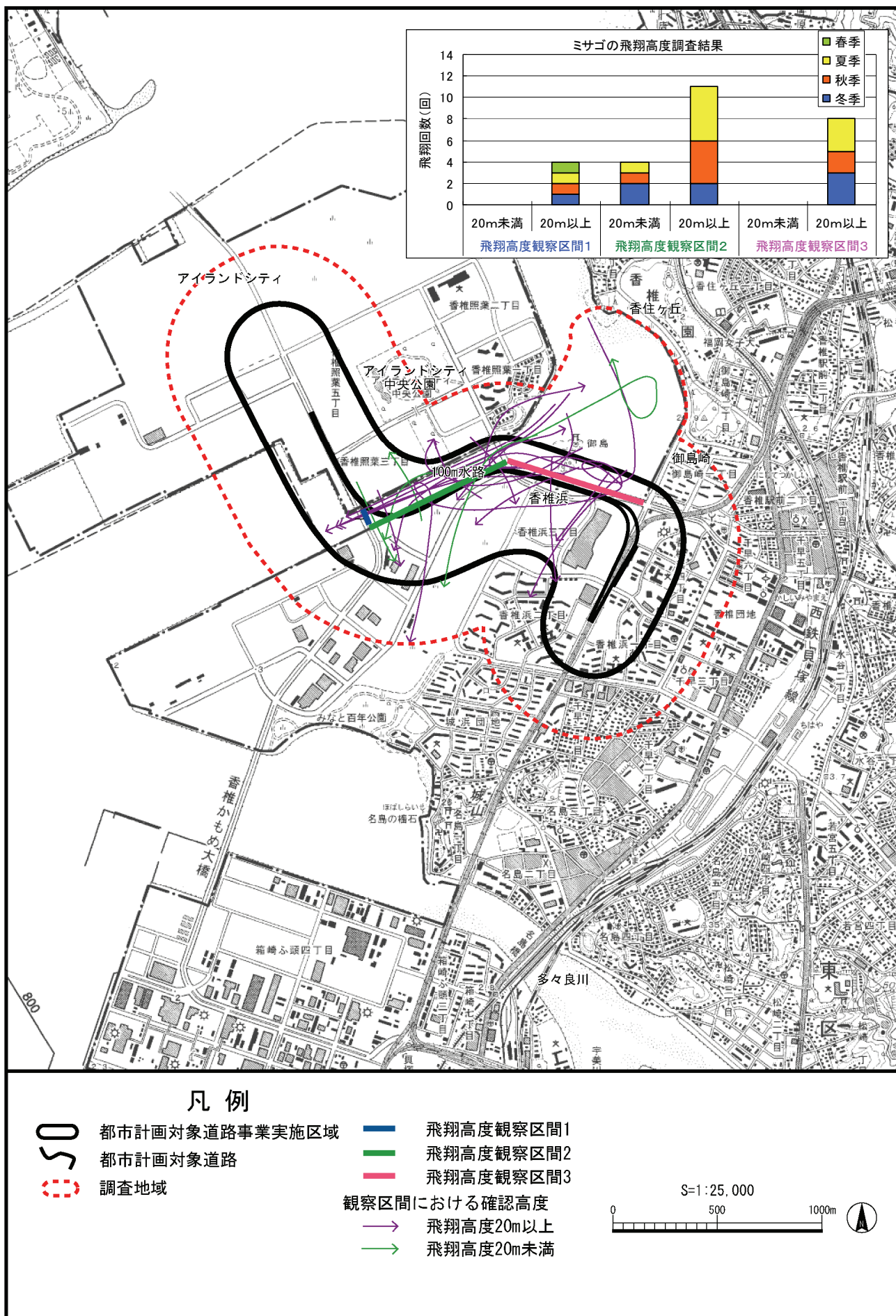


図 8-9-10 現地調査によるミサゴの高度別飛翔状況

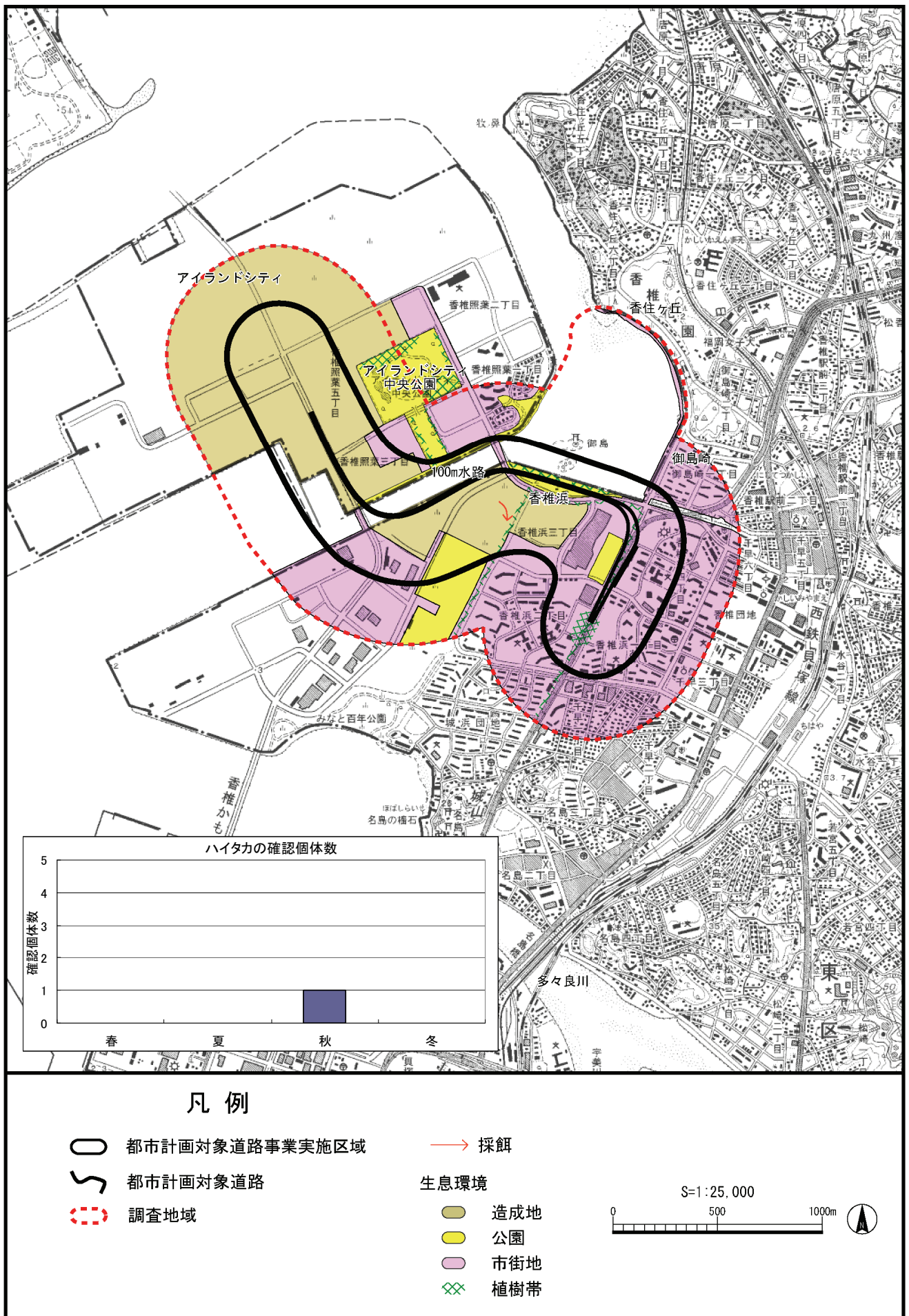


図 8-9-11 現地調査によるハイタカの確認状況

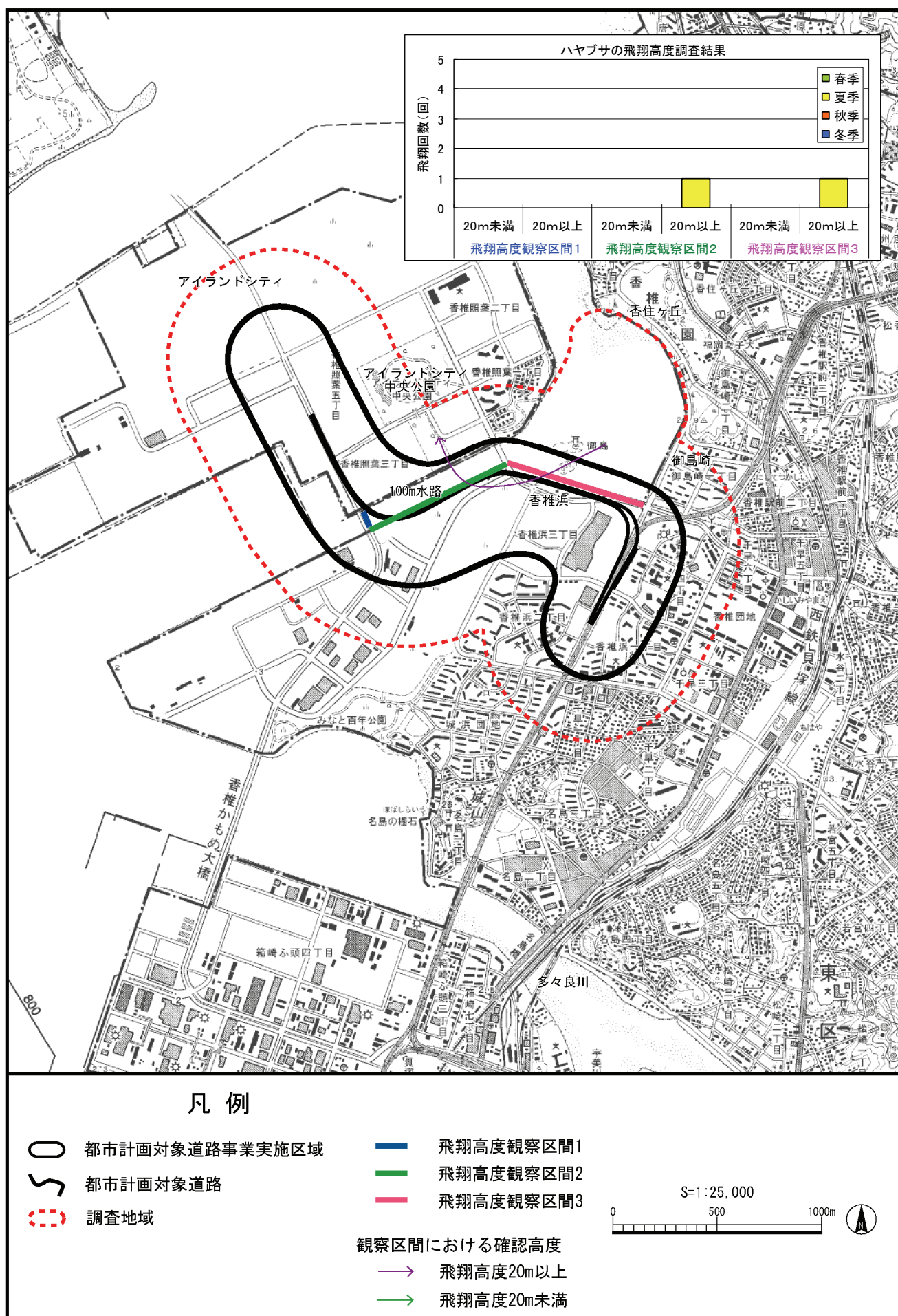


図 8-9-13 現地調査によるハヤブサの高度別飛翔状況

■ ミヤコドリ

〔一般生態〕

本種は、日本に冬鳥として飛来するが、定期的な越冬地は少ない。福岡県では、和白干潟が主な越冬地となっている。冬の生息環境は、潮下帯の砂浜、砂利浜、岩礁地、入り江の砂泥地等である。本種の餌は、二枚貝、カニ類、ゴカイ類等の底生動物である。繁殖地はユーラシア大陸の中緯度地域であり、調査地域周辺での繁殖事例はない。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 水辺の鳥」桐原政志解説（2000年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査の結果では、本種は春季、夏季、秋季に確認され、図 8-9-14 に示すとおり、主に香住ヶ丘及び御島周辺の岩礁や干潟で採餌、休息場として利用していた。これらの個体の一部は、和白と御島を往来していた。

以上のことから、本種は調査地域を渡りの中継地及び越冬地として利用し、主に御島や香住ヶ丘の岩礁や干潟を生息場とし、二枚貝等の底生動物を餌としていると推定される。また、「アイランドシティ海上遊歩道整備に係わる環境調査業務委託報告書」によれば、和白から御島を生息場とする個体は、香住ヶ丘とアイランドシティの間の海上を主要な移動経路とするとされている。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ ハマシギ

〔一般生態〕

本種は、ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北極圏に繁殖分布し、冬は地中海地域、アフリカ大陸、ペルシャ湾、インド、中国東部、北アメリカ大陸南部などに渡ってすごす。日本には旅鳥として、8～10月ごろと4～5月ごろに現れる。最もふつうに見られるシギで、渡来数も多い。北海道から南西諸島に至る各地の海岸や内陸の河川で少数が越冬する。

砂泥地の薄くフィルム状に水につかるところを気忙しく歩き回って、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を食べる。

ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北極圏に繁殖分布する。繁殖期は5～7月、巣は草や灌木の根元に浅い窪みをつくり、枯れ草や藓類を敷く。

〔出典：「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 8-9-15 に示すとおり、春季に御島周辺の海域で春季に1個体が確認された。干潮時に御島周辺や香椎花園前の海岸でチュウシャクシギやミヤコドリと共に採餌するのが観察された。本種の渡りの時期である春季に確認されたため、渡りの途中に立ち寄った個体と考えられる。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ ホウロクシギ

〔一般生態〕

本種は、日本には旅鳥として全土に現れ、8月～10月、3月～6月にみられる。本州中部以南では少数が越冬する。生息環境は、海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地等である。本種の餌はゴカイ類、カニ類、二枚貝等の底生動物であり、平坦な砂泥地で、長くて下湾したくちばしを深く差し込み、採餌する。繁殖地はユーラシア大陸極東部のカムチャッカ半島とウスリーに限定され、調査地域内での繁殖事例はない。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 水辺の鳥」桐原政志解説（2000年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査の結果では、本種は秋季に確認され、図 8-9-16 に示すとおり、主に香住ヶ丘及び御島周辺の岩礁や干潟、100m 水路の護岸を採餌、休息場として利用していた。

以上のことから、本種は調査地域を渡りの中継地として利用し、主に御島や香住ヶ丘の岩礁や干潟、護岸を生息場とし、二枚貝等の底生動物を餌としていると推定される。また、御島海域を利用する個体は、100m 水路上空を移動経路としていると推定される。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ コアジサシ

〔一般生態〕

本種は、日本には夏鳥として本州以南に飛来する。生息環境は、湖沼、河川、河口等の大きな水系のある河原、砂洲、砂浜である。本種の餌は、イカナゴ、イワシ、フナ等の小型魚類であり、水面から 5～7m ぐらいの上空を飛翔し、獲物を見つけると水中に飛び込み獲物を捕らえる。繁殖地は日本では本州以南とされ、巣は捕食者が近づきにくい小島、河川の中州の砂地につくる。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 水辺の鳥」桐原政志解説（2000年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）
「日本鳥類大図鑑」清棲幸保（昭和53年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査の結果では、本種は図 8-9-17 に示すとおり、夏季に、御島海域で採餌する個体が確認された。また、調査地域では 100m 水路上空を飛翔する個体が多く確認され、100m 水路にかかる御島かたらい橋及び都市計画対象道路上空を横断する際の高度は、20m 以上が、飛翔高度観察区間 2 で 1 回、飛翔高度観察区間 3 で 2 回の計 3 回確認され、20m 未満が 1 回確認された（表 8-9-11、図 8-9-18 参照）。

以上のことから、本種は調査地域を繁殖期の餌場として利用し、主に御島海域を餌場とし、イカナゴ等の魚類を餌としていると推定される。また、御島海域を利用する個体は、100m 水路上空を移動経路としていると考えられる。なお、調査地域では、本種の繁殖環境である捕食者が近づきにくい砂地がほとんどないこと、繁殖期である春

季、夏季に卵や雛が確認されなかったことから、繁殖はしていないと考えられる。

■ オオヨシキリ

〔一般生態〕

本種は日本には夏鳥として、4月下旬ごろ北海道北・東部と沖縄を除く全土に渡来する。8月～9月には渡去し、東南アジアで越冬する。生息環境はヨシ原である。本種の餌は、昆虫類、クモ類等である。繁殖地は全国のヨシ原で、海岸や河口等の湿地の草原、山地の湖岸、河岸の湿地であり、繁殖期は5月～8月である。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 山野の鳥」五百沢日丸解説（2000年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 8-9-19 に示すとおり、春季、夏季に造成地の草地やアイランドシティ中央公園内のヨシで確認された。本種は繁殖期である春季から夏季に確認されていることから、造成地や公園などの草地で繁殖している可能性がある。

以上のことから、本種は造成地や公園等の草地を生息場とし、一部の個体が繁殖していると推定され、ハエやバッタ等の昆虫類を餌としていると考えられる。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ コサメビタキ

〔一般生態〕

本種は、九州でも繁殖するが、県内での繁殖期の観察記録はほとんどない。囀りが複雑だが他の夏鳥に比べて声量が小さく、渡来後つがいになると鳴かなくなるので、その存在を確認しにくいのか、情報が極めて少ない。

本種は、木の枝にじっと止まり、空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブなどの昆虫をフライングキャッチ法で捕獲する。

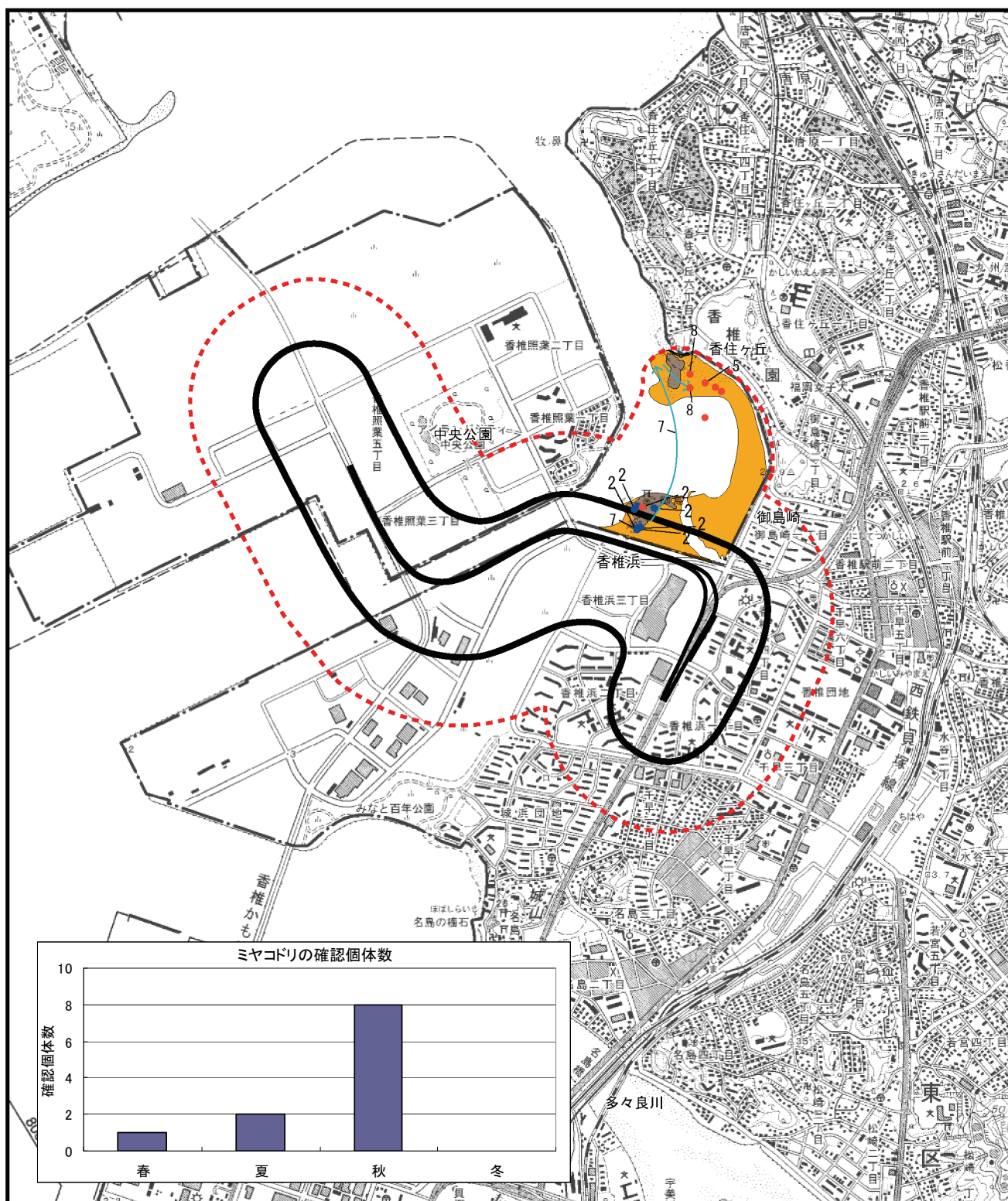
繁殖期は5～7月、年に1回の繁殖がふつうで、一夫一妻で繁殖する。高木の葉がない水平な枝の上に樹皮などで椀型の巣をつくり、外装をウメノキゴケで覆う。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑Ⅰ」清棲幸保（1980年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 8-9-20 に示すとおり、春季はルートセンサスの際に香椎浜南公園の植樹帯で1個体が確認された。本種の渡りの時期である春季（5月）に確認されたことから、渡りの途中に立ち寄ったものと考えられる。また、県内での繁殖記録はほとんどないことから、都市計画対象道路事業実施区域内での繁殖はないと考えられる。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。



凡 例



都市計画対象道路事業実施区域

都市計画対象道路

調査地域



採餌

休息

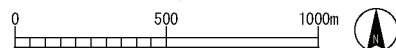
飛翔

生息環境

砂浜・干潟

岩礁

S=1:25,000



注1) 図中の数値は確認地点における確認個体数を示し、記載していない地点は1個体である。

注2) 確認地点は定点観察(1日当たり5回実施)、ラインセンサス調査等で確認されたすべての地点を図示しており、同一個体が複数回観察されている。このため、図中の確認地点数とグラフ上の確認個体数は一致しない。

図 8-9-14 現地調査によるミヤコドリの確認状況

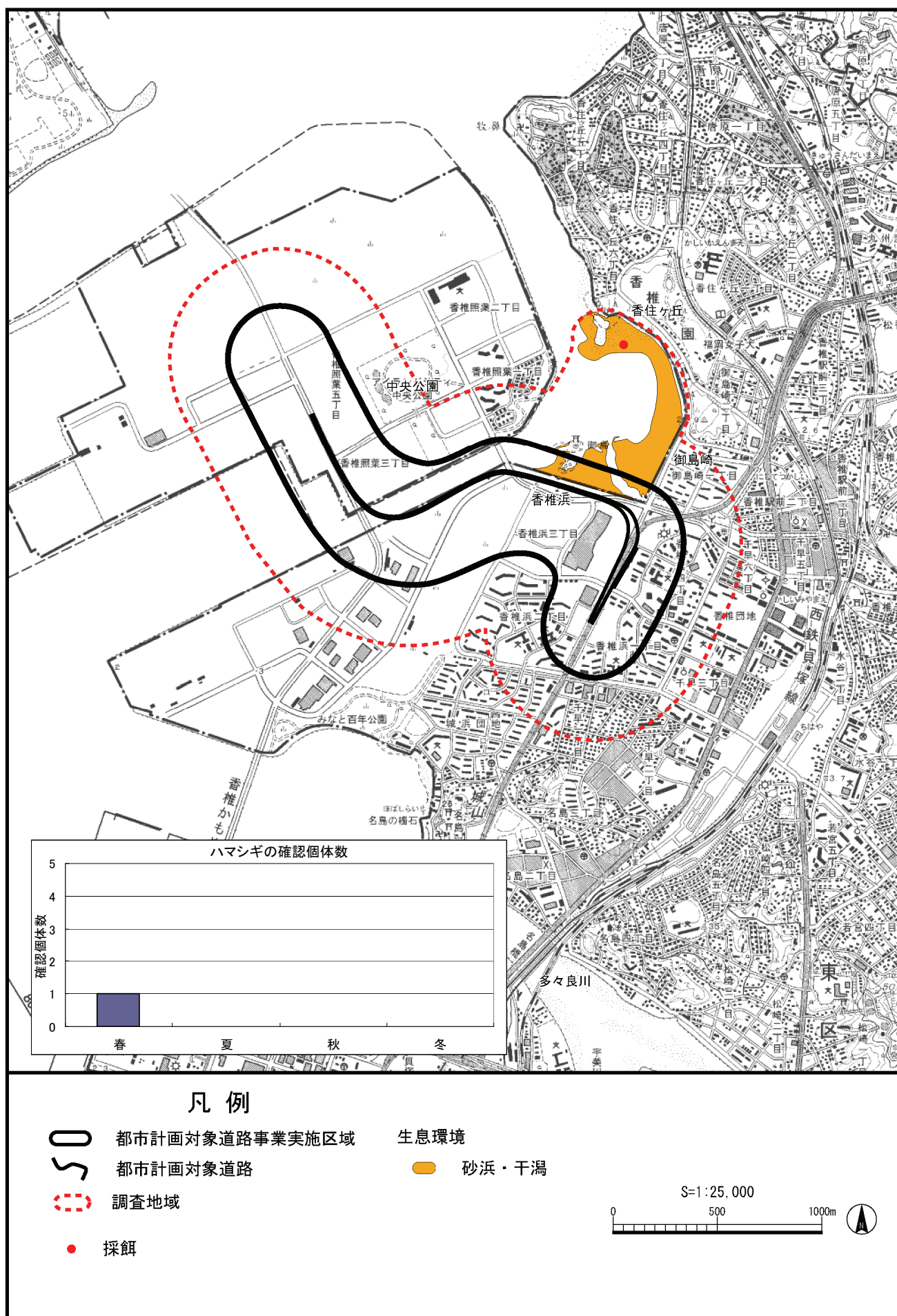
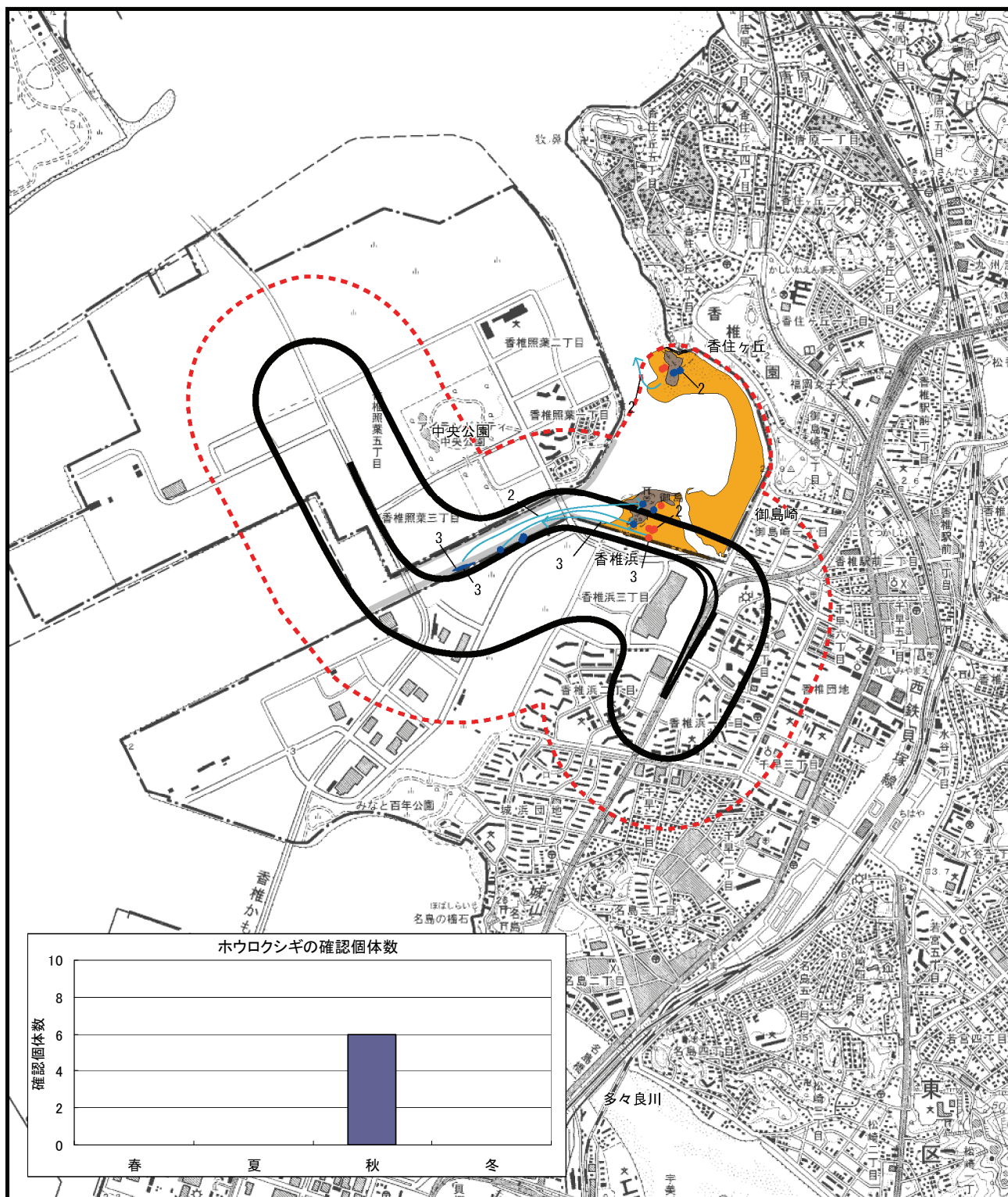


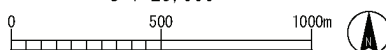
図 8-9-15 現地調査によるハマシギの確認状況



凡例

- | | | | | | |
|--|----------------|--|----|------|-------|
| | 都市計画対象道路事業実施区域 | | 採餌 | 生息環境 | |
| | 都市計画対象道路 | | 休息 | | |
| | 調査地域 | | 飛翔 | | |
| | | | | | 砂浜・干潟 |
| | | | | | 岩礁 |
| | | | | | 傾斜護岸 |

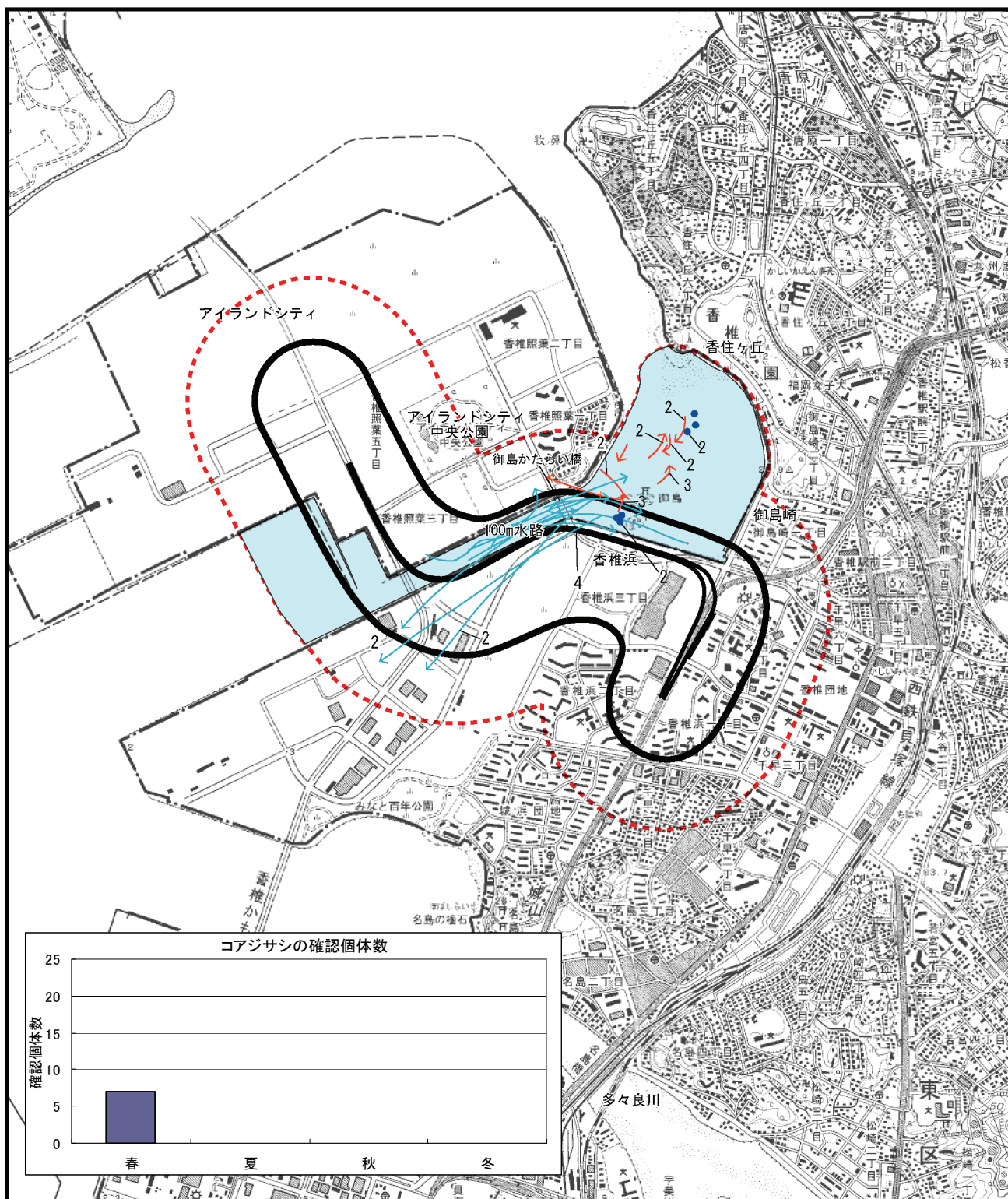
S=1:25,000



注1) 図中の数値は確認地点における確認個体数を示し、記載していない地点は1個体である。

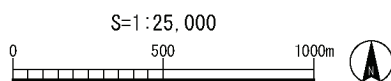
2) 確認地点は定点観察(1日当たり5回実施)、ラインセンサス調査等で確認されたすべての地点を図示しており、同一個体が複数回観察されている。このため、図中の確認地点数とグラフ上の確認個体数は一致しない。

図 8-9-16 現地調査によるハウロクシギの確認状況



凡 例

- 都市計画対象道路事業実施区域
- 都市計画対象道路
- 調査地域
- 採餌
- 休息
- 飛翔
- 生息環境
- 浅海域（満潮時）



- 注1) 図中の数値は確認地点における確認個体数を示し、記載していない地点は1個体である。
- 注2) 確認地点は定点観察(1日当たり5回実施)、ラインセンス調査等で確認されたすべての地点を图示しており、同一個体が複数回観察されている。このため、図中の確認地点数とグラフ上の確認個体数は一致しない。

図 8-9-17 現地調査によるコアシサシの確認状況

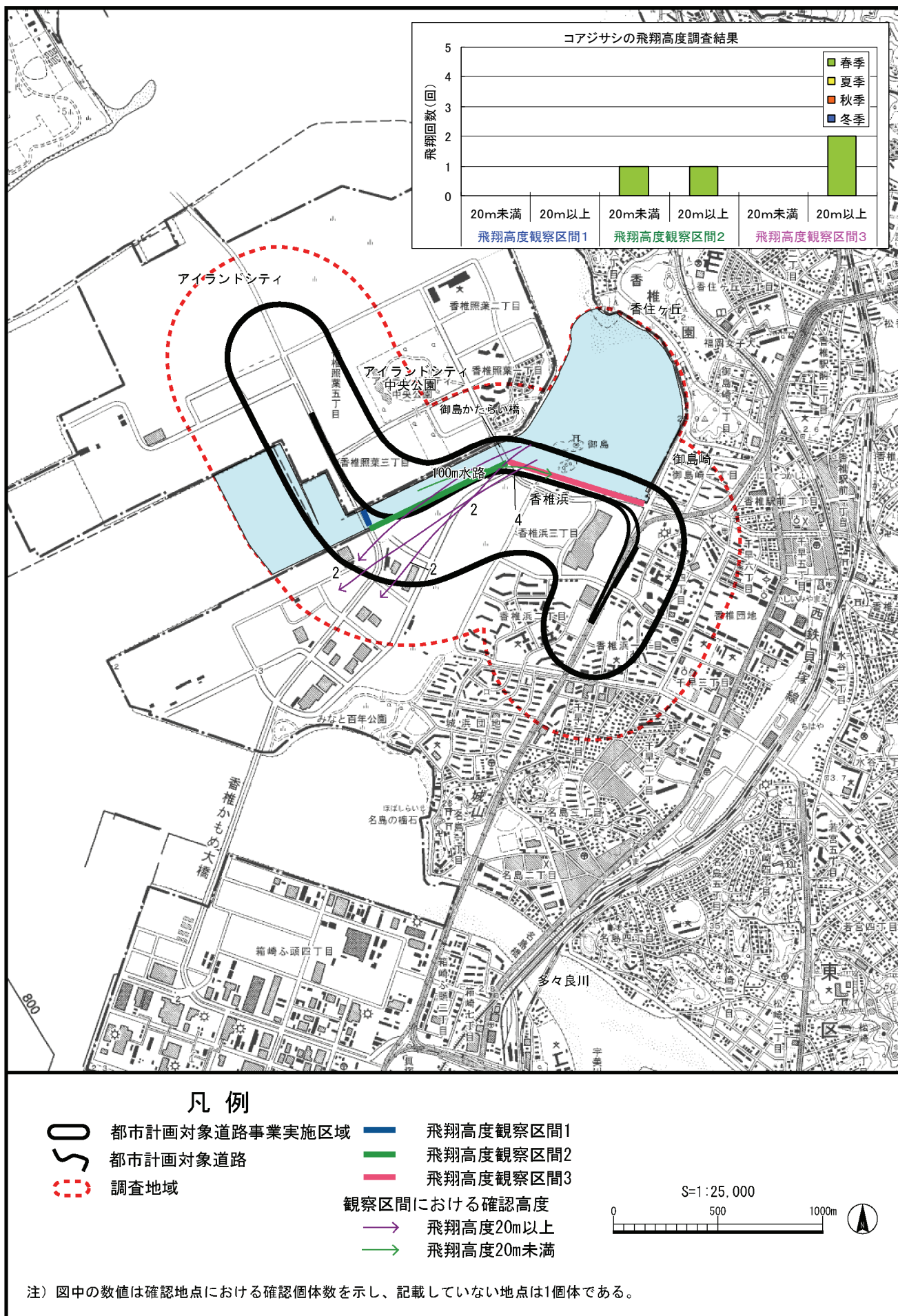
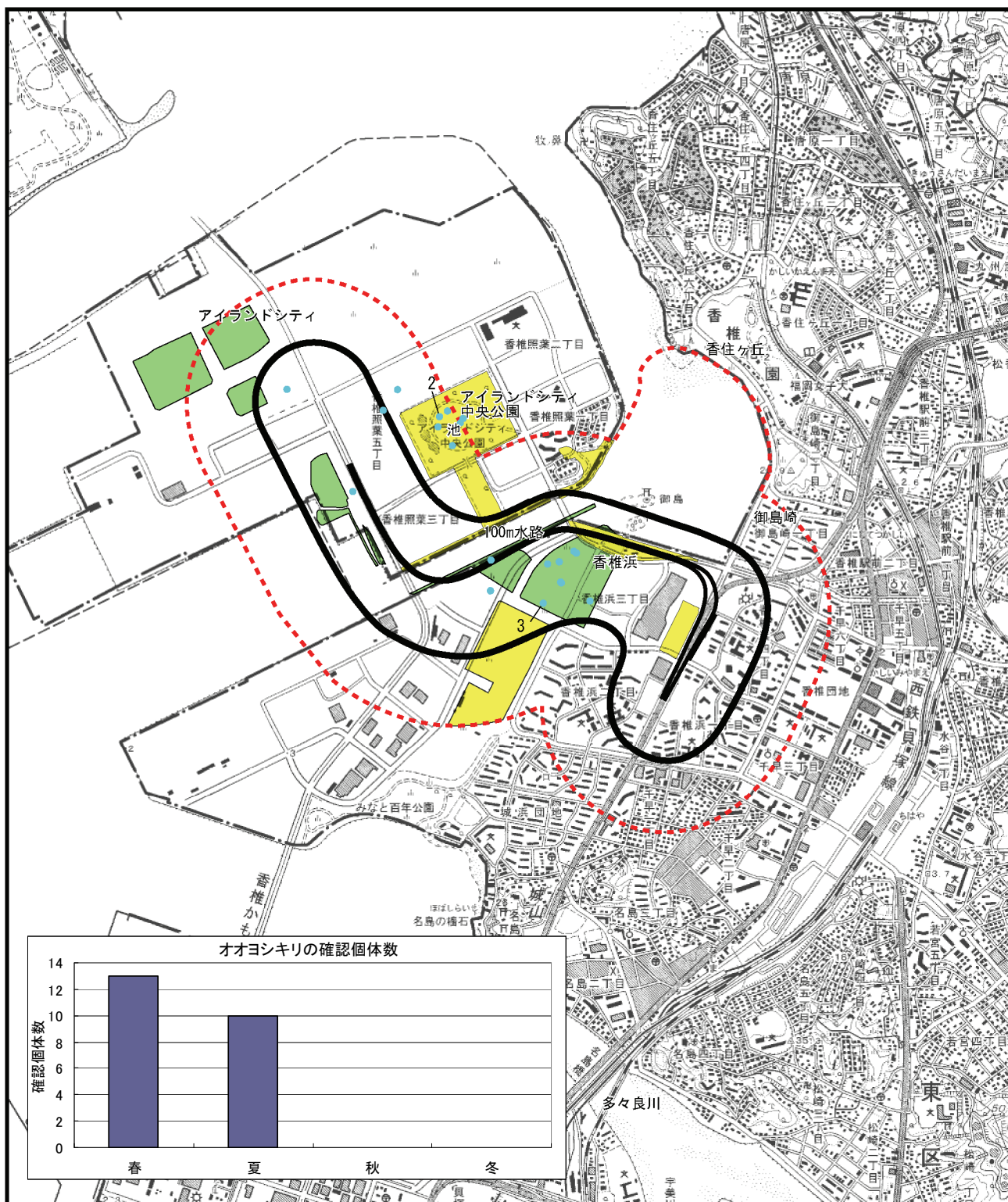


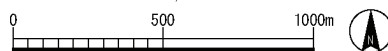
図 8-9-18 現地調査によるコアジサシの高度別飛翔状況



凡例

- 都市計画対象道路事業実施区域
- 都市計画対象道路
- 調査地域
- さえずり
- 生息環境
- 造成地（池）
- 公園

S=1:25,000



注1) 図中の数値は確認地点における確認個体数を示し、記載していない地点は1個体である。

注2) 確認地点は定点観察(1日当たり5回実施)、ラインセンサス調査等で確認されたすべての地点を図示しており、同一個体が複数回観察されている。このため、図中の確認地点数とグラフ上の確認個体数は一致しない。

図 8-9-19 現地調査によるオオシキリの確認状況